



7月18日(月)～7月24日(日)の支援活動

支援所への支援物資提供

レストランプロジェクト

食材支援



食材支援を受けている家族から支援者の皆様へ手作りのメッセージを頂いた。メッセージには皆様への深い感謝と敬意が込められている。

ご支援総額

2022年7月22日までの寄付総額 97,933,632 円

寄付金使用総額 1148842.57 zł (3,332万円)

7/18(月)～7/24(日)の期間中の寄附金使用額

44415.88 zł(約129万円)

活動内容



支援所への支援物資提供

クラクフ中央駅地下のカリタス支援所に、物資の買い出し支援を実施。

今週は歯磨き粉・おむつ・石鹸・缶詰・生理用品・シェーバー等を購入。



レストランプロジェクト

4店舗と協力し1週間で約1050食を提供。

かつてクラクフ中央駅構内に避難所を設け、福田会が物資支援を行っていたプラットフォーム4番避難所（現：オポルスカ支援所）にも月300枚のクーポンを提供しており、彼らの支援所を訪れた人々にも温かい食事が届けられている。

写真はオポルスカ支援所のボランティアスタッフと、クーポンにナンバリングを行う福田会スタッフ。



食材支援

23家族に1週間分の昼食用食材を提供。

合計で 2698.18 zł (約78,000円)分の食材を購入。

パンやパスタ・米・野菜・肉・フルーツなどの主要食品に加え、予算の中からコーラやクッキー、チーズケーキを購入している方もいる。

これらは避難所や避難生活の中ではまず手に入らないため、少しでも日常生活に戻った気分になれるという。

また、他の避難民の方と顔を合わす事が出来るため、人々は週に1度の食材支援をとても楽しみにしている。





現地の動向

北アフリカからの熱波の到来により、ポーランドでも連日30℃超えの厳しい暑さが続いている。

ウクライナ避難民によるデモが行われているクラクフ中央広場では、高温に熱せられた地面を冷やすための散水車が、デモ隊の横に構える珍しい光景が見られた。

侵攻以降、多くの避難民を受け入れてきた国境の町・プシェミシルでは、今も多くの避難民が次の避難先を目指し、プシェミシル駅を利用している。

ウクライナからの列車は1日に4便到着しており、駅構内には特設の休憩所と無料の食事サービスがあり、ボランティアによる24時間のサポート体制が整っているため、プシェミシルに到着した避難民らは、駅で手厚いサポートを受けることができる。

